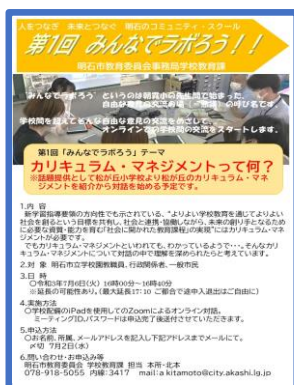


みんなでラボろう！！

明石市教育委員会事務局学校教育課

mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp

ありがとうございました“第1回みんなでらぼろう！”が無事終了



7月6日(火)16時より“第1回みんなでらぼろう”がzoomを使って開催されました。“Meet de 対話” “Meet de Cafe”等で対話を重ねてきた昨年と違いGIGAスクール構想で学校のネット環境も整い、途中出入りはありましたが40名近くの方にご参加いただくことができました。参加者は先生方、市民の方、行政関係者等結構色とりどりで学校間、校種間等の壁を超えての対話をめざす“みんなでらぼろう”にとって幸先のいいスタートが切れたかなと思っています。

話題提供として松が丘小学校の大谷先生から松が丘のカリキュラム・マネジメントについての話をしていただきそこから対話へと入っていききました。

大谷先生からは子どもも教師も学校が楽しい(ワクワク)と思えるような学校を創るということが研究の根っこであり、「ありがとう」で学校と地域がつながっていく入学から卒業までの「松小ストーリー」を組み立てたカリキュラム・マネジメントであるといったお話、そのカリキュラム・マネジメントを支えるのは管理職・学年団・研推・児童生徒支援教員等で開催される各学年毎の「学年戦略会議」での子どもを中心に据えた大人の対話であるといったお話、“イノベーションを生む対話的な学び”は子どもだけでなく、教師にも当てはまり、対話から生まれたことで何かが変わることを実感することが大切だといった話と対話への話題提供をしていただきました。

また、今年度起こしたイノベーションの一つの事例として2年生の「松小マルシェ」の紹介をしていただきました。松が丘では3年生の環境体験の一環として“ホタルの幼虫”を中庭の池に放流しています。幼虫購入の資金を地域の方から等の募金だけでなく、自分たちでも購入資金を作ろうということで、生活科での野菜の栽培を活用し、収穫できた野菜をマルシェで販売し、それを「ホタル銀行」としてためていこうという取組を紹介していただきました。あとから聞いたことですが、その活動には自分たちの収穫した野菜をおいしく食べていただくためのレシピをロイロノートで作成し、紹介するという取組もあったようですが、そのことを紹介し忘れてしまっていたというハプニングもあったようです。



対話では校種の違う中学校の先生、コミセンの方等小学校の先生だけでなく、様々な立場の方からご意見を頂けたのは第1回にしてはまずまずだったかなと思いますが次のような貴重なご意見・ご感想をいただいています。

- 朝霧小の参加メンバーは、以前大谷さんからの話を聞いていたので、それほどハードルは高くなかったが初めて話を聞かれたところは、「大変そう」と受け止めたかも。
- インプットばかりではだめで、それについてアウトプットする機会が必要。ブレイクアウトルームを使って、グループディスカッションをする時間を確保した方がいいかも。
- 大谷先生の「教師も児童も楽しくないと…」のところ大賛成です。最近の教育現場で「楽しむ」ということが、特に教師が楽しむということが何か悪のような雰囲気心配です。それから北迫

校長先生の話の中で「地域の方が今年の6年生は何をするのか楽しみにしている」というところから児童、教師、地域の方それぞれが楽しむ関係性ができているということだと思えます。その関係性こそがコミュニティ・スクールの大前提であると感じました。

- 「学校のやっていることが見えにくい。学校に口出しできない」これはどこの校区でも地域の方が抱いている思いでしょう。子どもたちのために、学校に協力したいと考える地域と一緒にやっていきたいと考える学校とをコーディネートする人が必要になってくると感じました。
- 教師も子どももカリキュラム マネジメントをやらなければ・・・というやらされている感がなく、自分たちから主体的にクラス、学年、学校を創っていこう！というスタンスが浸透してきているのが伝わってきました。まさに、「イノベーション！」学校が楽しくなっている時です！カリマネをしないといけないからするのではなく、チーム松が丘のサクセスストーリーの中の一部にカリマネが位置付けられているという研究に魅力を感じました
- 手島指導主事が「つながる」を強調されたことは、嬉しかったしほっとしました。やたらと横文字が多い中、変革というとなんだか何十年も前から大事にしてきたものが何か否定されている気がしていましたから…。
- 子どもたちの成長のために色々なことを考えていただき前に向かってチャレンジしている姿は誇らしげでもあり、また地域の者にとっては嬉しい限りです。一方では、松が丘小の”カリマネマップ”、”グランドデザイン”等を見せていただいて、わが〇〇小ではどのような検討をされているのだろうかと思うようになりました。学校間によるばらつきは大きいように感じます。”社会に開かれた教育課程の実現”という言葉に対して、地域としてはどのように受け止めればいいのか、どこまで関われるのかいまだ見えません。

(※いただいた感想より抜粋させていただいています。)

最後に清重教育長のご紹介でオンラインに入ってこられた立命館大柏木教授からは「学校の先生がザックバランに、そして地域の方が本音で語り合う中で明石市の子どもを育てるソーシャルキャピタルが出来上がっていく」といった感想もいただくことができ、オンラインの可能性を改めて感じさせていただきました。

また、対話の中で松が丘小学校の北迫校長先生より、地域の方が地域の掲示板に子どもたちが作った松が丘プロジェクトへの参加を呼びかけるお願いを貼った横に地域の方がつくられた地域の方への呼びかけのポスターのお話がありましたがその写真が届きました。地域の方に子どもたちが本当に支えられているんだなと感じます。



＝第2回に日時・テーマが決まりましたらお知らせさせていただきます＝

“第1回みんなでラボろう”の動画は下記のところで視聴できます。

明石市小中学校：ロイロノート

資料箱→兵庫県明石市→先生のみ→コミュニティ・スクール関係→みんなでラボろう
地域の方・市民の方・他市他府県の方：Googleドライブ

動画を共有させていただきますのでGoogleアカウントを下記アドレスまで

明石市教育委員会学校教育課 北本：a_kitamoto@city.akashi.lg.jp

(文責：北本)